
一部50円です

仔牛のキン玉



小学校に入る頃の記憶の一コマである。母が何処で聞いてきたのか「おねしょに、牛の睾丸がよく効くらしい」という。田舎で飼っている牛が子牛を産むと雄牛はキン抜きをされて太らせて肉牛として売られていく。そのキン抜きをする広場に母は私を連れ出して、獣医が切り落として土まみれになった玉を拾わせた。血のついた玉を幾つか拾い家に持ち帰った。玉を水で洗い七輪で焼く、暫く焼肉のように焦げ目が付くように焼き上げた。それを母は私に「これは身体に良いそうだから、食べ」と言う。私は嫌がったが、母の泣き落としの術に引っかかり食べずにはおれなかった。コリコリとした歯ざわりでおかしな物を食っているという意識は子供なりに強く印象に残った。結局三つ位食べさせられる羽目になった。そんな事があってもおねしょを時々したので再度玉拾いに出かけたものだ。

その後も獣医がキン抜きをするのを何度も見た。切り落とされた玉は土の上に転がって日が経てば干からびて小さくなってゴミ屑になってしまう。よくもまあ、あんな物を食べたものだと思った。誰に聞いてもそんなものを食べたものはいない。へんな物を食べさせられたという思い出だけだった。

阪神大震災が起きる少し前に西宮の先輩から呼ばれて書斎に行った時のことである。彼が集めた多くの漢方が、ピンにリカー漬けにされて並んでいた。その中の秘蔵中の秘蔵品だと言って飲ましてくれたのが「虎のキン玉漬け」だった。有難く頂戴した。その日は、先輩から秘蔵品を次から次と見せて頂き説明を拝聴した。『元気の出るある植物の種』『ペトコン兵士愛用の田七人参』を始め多数の秘蔵品があり、先輩の説明はその秘蔵品をえらく魅惑的なものに見せた。その秘蔵品も地震で全て瓦礫の下となった。

何もない田舎で薬に代わる薬草はドクダミ・蔞の葉・よもぎ・ゲンノショウコなどであったが、キン玉も漢方の一つだったのだろう。幼い時は涙して嫌々飲み込んだが、西宮では先輩の絶妙な講釈と権威で虎のキン玉漬けを喜んで飲ませて頂いた。仔牛のキン玉の効用も虎に負けず劣らず優れものだったに違いない。私も、元気で暮らせるのは両方の玉の効用と母の子に対するひた向きの愛情のお蔭だと思う年齢になった。

連載 爺捨て山7

梵店主

「笑い」と「土」の次には何が必要か。それは決まっている。「酒」だ。

私の好みでは濁酒だ。大きな瓶になみなみと仕込む。幾つもの瓶を日陰の小屋に貯え、毎日好きなだけ飲む。自前で造るつもりだ。酒の肴は、蔞などの山菜を料理したものでよい。

毎日一升飲むとして、我が身が何年持つだろうか。三年も持つまいと思うのだが、医者がある時「酒ぐらい飲んでも死なない。そんな事で死ねたら、皆苦勞せんわ」と言われた。そうだろうか。

一番の心配は、付き合ってくれる奴がいるかなという事である。酒は独りではまずい。くだらぬ事を何度もくり返しひとりガ点しながら独り言のように喋る。そんな時にも、聞いている振りをしてくれる相手がいなくて酒は美味しく飲めない。酒と共に己れのこれまでを、繰り返して繰り返して思い出して、己れに浸みつけた習性を語り、己れを肯定してやりたい。酒を媒体に、互いを認め合いたい、わかりあいたいと思うのだ。

先日、人気アイドルの深酒全裸事件があったが、私としては、同情の念が強い。爺捨て山では酒を飲み「自己を肯定する」これが必要だと思うのだが・・・。

劍岳北方稜線 ②

梵店主

足の筋肉が緊張してつりそうになつてきている。出発してから半時間も経ってはいない。よっちゃんの持ち前の強い体力でも、この急斜面の雪壁を登る事は至難であった。

雪面に強く蹴り込んだ爪先のアイゼンがもう少しでもくい込めば違ったかもしれない。昨夜の寒冷前線通過で溶けはじめていた雪面が一気に青氷と化していた。

昨夜の冷え込みさえなければ、膝下までもぐる雪質であったはずだ。たとえ滑ったとしても途中で止まる水気をたっぷり含んだ雪が池ノ谷ガリー一面を覆っていたにちがいない。

ところが、目前に広がる青氷は昨夜までの踏み跡を吹雪で消し去って凍らし、ツルツルの氷の斜面にしていた。斜度四〇度はあるにちがいない急な氷壁になつてしまつていた。長さが千数百メートル、巾が百メートルもあるような氷壁の上部の真ん中によっちゃん達はいた。

同じルートでも気象条件によつて全く違った状況になる。よっちゃんは今最悪の状況ともいえる困難になつた。ルートのど真ん中において、そのうえ肝心の足

よっちゃんが見上げてみても氷壁がまだまだ続いている。上は見上げるが下は怖くて見る気がしない。確実に生と死の狭間にいた。時間がたつのが長く感じ、時間と共に疲れが溜まり、そのままた谷底へ滑り落ちてしまうのではないかとこの恐怖感が襲ってくる。

数秒間、立ち止まり、ふたたび登り始めた。傾斜がきつくなつてくる。アイゼンの爪は深く氷にくい込まないので、最後の手段でピッケルのシャフトを握つて大きく振り降ろしてブレードを氷に突き刺した。ピッケルに括り付けたピッケルバンドを手首に巻きつけて身体を引き上げる。両手であれば安定するが片手なので不安定である。担いでいる荷が重くて屈みながら登らなければならぬから、登る姿勢は悪いが、そんな事を気にする余裕などはない。

後について登ってくる山猿に言葉を掛ける事も忘れていた。何とか早く登り切らなければ。生きる為には登りきるしかない。アイゼンを付けた足は不自然な姿勢であるから疲労の限界にきていたが、よっちゃんの頭の中は登り切ることだけだつた。

必死に登行を続け、よっちゃんはずいぶん雪壁が終る池ノ谷乗越に手が届く地点まで登ってきた。最後の雪稜を越えるために思い切りピッケルを打ち込

みピッケルバンドを巻きつけた右腕の手首でピッケルを握り身体を引きずり上げようとした瞬間、ピッケルバンドがスルスルと解けた。よっちゃんはずいぶんピッケルにしがみついて素早く稜線を越えた。間一髪、滑り落ちるのを免れた。

「とにかく早く登りきる」という思いだけが強く必死だつた。ピッケルバンドを無造作に扱つた為か判らないが、ほどけていたのであつた。通常ではほどける事はないにもかかわらず、最も危険なところまでほどけたのである。

後に続く山猿、由ベエ、M蔵たちも登ってきた。もし、バンドが解けるのが少しでも早かつたら。全員が池の谷ガリーの深い谷底に滑落して、幾年月を経ても見つからず埋もれたままになつていたことだろう。

劍岳の頂に続く稜線は切り立った岩と雪がつづくが、日が昇り凍つた雪を溶かし容易に踏み跡が残るようになった。よっちゃんは、ガリガリに凍つた雪が溶けてザラメ状に変化したのを見て、緊張した心が緩んでいくように思えた。

頂で、初めて三人のパーティーとすれちがった。天気が快晴になつて雲海の波間に富山湾の海が見わたせた。

早月尾根を下れば馬場島である。よっちゃんたちは、劍の頂から走るように早月尾根を下り馬場島に無事着いた。

山では偶然が重なり生きたり死んだりするが、よっちゃんはたまたま運が良かったにすぎない。劍岳で亡くなつた人は多い。急峻な地形が気象条件が少し悪くなれば一瞬にして魔のルートになる。同じルートを同じ時期に何度登つても、状況は全く違う。山も生きもののように、刻々と変わる。

後年、由ベエは、当時のガリーの雪面の状態を振り返つて「私が行つた山の中で最も難しかった青氷だつた。ヒマラヤでもあれほど酷くはなかつた」と言つた。



最悪の池ノ谷ガリーを登りきつて、無事に劍岳山頂にたつ左からよっちゃん、由ベエ、M蔵、山猿

酒は恐い (続き)

明石幸次郎

先月号で取り上げましたが、中川前財務大臣がイタリアでのG7会議終了後、酩酊状態の記者会見での失態は記憶に新しいですが、本人が世論の圧力で仕方なく大臣を辞任してしまえば、マスコミもそれまで言っていた国民に対する責任追及は、マスコミ独自の武士の情けか、議員との馴れ合いか、それ以上せず、それで本人の責任は免れ、国会議員としての待遇は何ら変わらず、歳費減棒もされずに、先生の地位は安泰です。そしてご本人は、今も自民党の主要国会議員と言う重責?のストレス解消でお酒を飲んでおられるのでしょうか。

奥さんも今まで通りに旦那に尽くしていることでしょうか。我々中高年の理想の奥さん像を演じ、母性本能で旦那さんを盛り立て、お酒は控えたらと言うような、そこらの嫁さんみたいな野暮な説教はしないで「大丈夫、大丈夫、あなたは偉い、日本一。政権が変われば、海外で有名になったので、今度は外務大臣に任命されるかもね。それまでもっとお酒に強くなるとダメよ。お隣の国に行く」と宴席で上手く飲まされて、酔わされた挙句、国家重要機密を漏らしてしまうか

もしれないわよ。そうなれば、今度は逃げ切れないわよ。イタリアの一五度くらいのワインで酔っ払っては駄目よ、日頃、中国の六〇度くらいの白酒か八〇度くらいのロシアのウツカを飲んで鍛えないと、北海の熊と呼ばれていた豪放磊落の酒豪のお父さんの上にはいけないわよ」と毎晩奥さんに度数のきつい酒を勧められ? 捲土重来を期して日夜酒の鍛練されておられるかも知れません。

この中川前大臣と比べて、先日酒に酔って公園で裸になって騒いだタレントの草薨君の非難されようは同じ有名人も、国民に迷惑を掛けた実態の大きささと、国民に与えたマイナスの影響度を比べれば、余りにも草薨君のマスコミに叩かれようの方が大きく、報道のバランス感覚を疑います。しかも警察の反応も家宅捜査までして、これは異常ですね。

同じ酒の失態を取り扱うにしても、かんぽの宿売却問題で存在感を示した? 国民の味方を自称している鳩山総務大臣が自らスポンサーとして、草薨君を地上デジタル化推進のCMに使ったことを問われ「最低の人間だ。絶対に許せない!」と吼えまくり、大衆受けを意識され、見識と良識のある? 大臣としての発言をされました。さすがにこの発言と警察の捜査の行き過ぎ

に、世間は何なものか、と声を上げた途端に、この大臣は「最低の人間とは言いつ過ぎた。最低、最悪の行為であった」と言い換えられました。

草薨君が強姦とか殺人でも犯しておれば、この最低、最悪の行為という表現は適切で、国民も納得しますが、草薨君のやった行為は決して許された行為ではないが、ここまで吼えるのであれば、中川さんのお友達であるのかも知れませんが、中川さんの酩酊問題に対して「中川さんは最低の財務大臣だ。この未曾有の危機対策の話し合いに、飛行機代だけで二千万円もする専用機を使ってイタリアまで行って、酩酊して海外から失笑され、国民に対して、職務怠慢の責任をどう取るつもりか」と自ら吼えまくり辞任に追い込む流れをつくれれば、流石、二世議員でも中川とは出来が違うと評価されたはずですが。

この事件を、小淵優子少子化対策大臣辺りが、マスコミの質問に「草薨君も夜中に赤坂の公園で裸にならず、早く結婚して、家庭を持ち、少子化対策の解決に協力して下さいよ」。総務省の硬いイメージを壊してCMから下ろされたら、今度は柔らかい少子化対策推進のCMに使いたいものです」とユーモアとウィットを交え、笑いながら答えたら世論の反応も明るくなり、笑えると思えますが、真面目で建前は冗談も許さないA型の

日本社会は、こんな発言は許されるはずはなく、許されるのは、タレントのビートたけし位でありますね。

酒を飲んで許容量を超えると宴会で皆の前で裸になる男は、私が以前勤めていた真面目な会社にも居ました。このN君は普段はおとなしく余り自己主張もしくなく、言われたことをコツコツとこなすタイプでありました。草薨君も多分こんなタイプなのでしょう。N君は日頃のストレスを、酒の許容量を越えようと裸になって発散させていたもので、周りは酒の席のこととして大目に見ていました。しかし度重なると女性陣からはクレームがでるので、幹事は彼がパンツを脱ぎかけたら力づくで抑え、それ以上の行為をストップさせていました。因みにN君はごく普通の好青年で、結婚して子供も二人居ます。

これも先日、世界選手権にも出たフランスの棒高跳びの選手が、自らのスポンサーを探するために、手取り早く目立つ為に、裸でパリ市内をポールを持って走り回ったニュースがありました。しかし、これをパリ市民は大目に見て、しかもスポンサーが現れたと言ふことです。フランス人の大人の対応、フランス社会の許容量、懐の大きさを今回の草薨君事件と比べて感じました。

異国の旅

私はいまでも出かけるのが好きです。幼い時から父や母に連れられ、泊まりがけで親戚の家へ遊びに行ったものです。訪ねる先々では、私は誰とでも仲良く楽しく遊ぶ子でしたので、どここの親戚でも歓迎してくれました。

私は、小さい時は泣き虫だったので、妹が多かったので母に甘えたという記憶はほとんどありませんが、小学校へ入学した頃の頃は、母の顔が見えないと学校へ行けないような弱虫でした。ところが、学校へ通い始めてしばらくすると、他所へ泊まりに行くのが大好きになったのです。夏休みになると、おばさんの家に長く泊まるなど、ますます旅行が好きになりました。

「気学」を勉強している妹が、私が旅行に出る前には必ず相談してねといえます。「人が居場所を変えるときは、変化のある時で、移動する方向によって良くもなり悪くもなるから、私に相談してから旅行に行きなさいね」というのです。

平成七年に海外旅行に行くとき、東京在住のその妹に電話をして相談しました。「一月九日から三週間。イタリア、ギリシャ、エジプト、トルコへ行く計画を立てただけけれど、どうかしら」

と。妹はいろいろ調べて、しばらくしてから電話がありました。

「旅行に行ってもいいけど、ちょっと日本に変わった事が起きるらしいのよ。あなたはいいいけど、何かわからないけど気をつけて行ってきてね。海外のほうでは何かこれといった事件は起こらないようだけれど。あなたの周囲に変化があつて、思いもかけない出来事が起こるみたいなの。何か宿題が出るらしいのよ」と妹はいうのです。彼女の言う「宿題」がどういう意味なのかわかりませんでした。

一緒に行く予定の友達の中に、出発が一日の方が都合がいいと言う人がいたので、妹は「一六日はダメと妹がいうのです。それで私は友人に「私は九日に出発します。どうしても一六日に行きたいのなら、ご自分でして下さい」といいますと、幾度か連れ立って旅行した友でもありましたし、よくよく考えて彼女も一緒に九日に出発する事を承諾してくれました。三週間お互いに助け合いながら旅行しなければなりません。「よろしくね」と言いながら手を握り合いました。

出発は予定通り一月九日。見送りは私の家族、友達の家です。次男の嫁のお母さんも旅行のメンバーの一人です。集合場所に集まったのは私たち二人と藤井さん、藤本さんの四名です。

いつもも同行する方々でした。関空を発つて、成田でツアー客と合流して、夕闇が迫る頃、成田空港を飛び立ちました。

最初の訪問地はイタリアのローマです。朝方に着いた私たちは、さっそく空港に待機してくれていたバスに乗り込み、市内観光をしました。コロッセオ、フォロ・ロマーノ、トレビの泉などの名所を観光し、夕食はカンツォーネ・ディナーに招かれ楽しめました。二日目はヴァチカン観光です。荘厳で壮大なサンピエトロ寺院に圧倒され、ヴァチカン博物館では「最後の審判」などの美術品を鑑賞しました。

翌朝、直行便でエジプトのカイロに飛び、ホテルに荷物を預けてから、ギザのピラミッド、スフィンクスなどを観て、お土産店の名物パピルスを買いました。ピラミッドのサッカラ階段を上まで登りました。大変高くて、どのようにしてこの高いピラミッドを築いたのか不思議でした。スフィンクスも偉大でした。何もかもに感激した一日でした。一六日の朝、エジプトでの三日目の朝でした。朝刊を見てビックリです。最初は韓国はどこかと思つたのですが、写真をよく見たら神戸です。高架道路からトラックが落ちそうになっていたり、阪神高速が横倒しになっていたではありませんか。

神戸の地震災害を知らせる新聞だと知り、驚くばかりで、どうすることも出来ません。友人は日本へ帰りたがりません。私は、妹が言っていた出来事は、これだったのだと思つた。

やっとながつた電話で家族の無事を知つて、一安心です。エジプトにいる私たちが気をもんでも、仕方ありません。帰りたいたいという友に「あなた一人が帰りたいたいという我がままを言える状況ではないでしょう」と冷静に話をしました。関西から参加している人たちとも話し合つて、今の私たちにはどうすることも出来ないのだから、自分たちの現況に感謝して旅を続けましょうということになりました。

帰りたいたいと言っていた友も落ちつきを取りもどして、ナイル川の舟遊びを楽しみました。船上でのダンスに参加し、思いがけない姿を写真に残すチャンスにも恵まれました。エジプトからギリシャに行き、沢山の古代遺跡に感嘆したり、多くのミイラをみて冥福を祈つたりしました。ギリシャやエジプトの辺りは一年中暑くて乾燥しています。日本は緑多く四季がある有り難さを感じみ肌に感じました。トルコでは大きな建物や陶磁器などに目を奪われました。長旅の日々に満足して帰国の途に着きました。

和田惟長のその後

福嶋 努

和田惟長は、父惟政が戦死したことによって、父の跡を継ぎ、高槻城主となりました。一五七一年（元龜二年）のことで、その時の惟長の年令は、推定ではありませんが、十五歳前後だったようです。今でいえば、高校生のような年頃であります。実に若い殿様でした。

惟長が城主になってから二年後の一五七三年（元龜四年・天正元年）の春、和田氏の家臣高山飛騨守、高山右近父子らによって、この若殿様が高槻城から追放されるという事件が起こりました。和田氏一族は、思いもよらない、みじめな運命に出くわしたのでした。

イエズス会宣教師ルイス・フロイスの本国（ポルトガル）への四月十九日付の書簡には、八日ほど前に「不思議な事件」が起こったと記してあります。それは、熱心なキリスト教徒である高山父子が、主君惟政の敵「①」と結び、惟長を追放したことをさしているのです。主君への反逆は、キリスト教でも非難されるべきことでありましたから、宣教師フロイスとしても、どのように評価すればよいのか分からなくなってしまう、迷った末に、「不思議

議な事件」というような曖昧といえる表現で本国へ報告したのではないかと思えます。

城を攻め、城主惟長と対決し、実際に斬り結んだのは右近でした。この時、右近は惟長より四歳ほど年長の二十一歳でした。父和田惟政に劣らぬ剣の使い手であった。十代の惟長と散々に斬り結んだ結果、相方ともに傷つき、右近自身は、瀕死の重傷を負うことになりました。

一方の惟長は、この時受けた傷がもとで、その後十日ほどして、若い命を落としてしまうことになりました。母や家来八十人とともにやっと逃れ着いた伏見の地で死亡してしまったといわれています。惟長の母親は、息子のために盛大な葬儀を営み、会葬者は涙を流し嘆き悲しんだという話も伝わっております。

ところが、和田惟長のこの死亡説と



高山右近 キリシタン大名として名をはせたが、家康のキリスト教禁令によって、一六一四年にマニラに追放になり、翌年没した。

は異なる別の話があるのです。それは、次のようなことです。

『戦国人名事典』（新人物往来社刊）には、「わだこれなが、和田維長（惟ではなく維となっております）？一六二八年（寛永五年）（伝右衛門、法名浄感）摂津高槻城主。伊賀守維政の子。元龜二年（一五七二）家督相続。天正元年（一五七三年）居城高槻城を攻略されて敗走。関ヶ原後は、徳川家康に仕え、慶長十年（一六〇五年）近江和田村に采地五百九十石余を賦与される。寛永五年（一六二八年）四月朔日、和田村で死去。葬地は、同所善福寺。」と記されているのです。

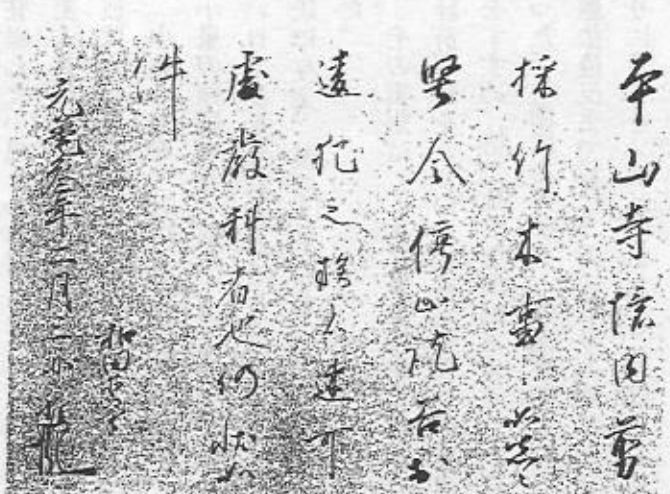
この事典に記されていることが事実だとするならば、和田惟長は、高槻城を出た後、五十数年間生存していたこととなります。

山城伏見の地で、盛大な葬儀を営み、惟長死亡の話を世間に広く流し、敵の追撃をたち切ろうとした見事な配慮には、ただただ感心するばかりです。そのような気配りは、一体誰がもたらしたのでしょうか。

宣教師フロイスは、和田惟政の妻のことを別な場面で賢夫人であったと称えています。知恵と勇氣のいる、追撃後の場面でのあの気配りは、恐らくは、この賢夫人即ち惟長の母のなせるわざであったことと思えてきます。

○ 若い高槻城主和田惟長の記した文書は、いまも高槻市内に数通のこっています。これは、本山寺にのこっている和田愛菊惟長禁制の文書。

写真掲載



問）文章の「①」に当てはまる言葉を次のア・イ・ウから一つ選んでください。

- ア、三好 長慶
- イ、毛利 元就
- ウ、荒木 村重

☆ 芥川だより32号のクイズの答えは、

（ア、十五才前後）でした

家の近くに八幡神社がある。創建は十二世紀末、鎌倉時代にさかのぼる。鎮懐石という男根石がご神体だ。

参道を横切るように、北国街道が善光寺へのびている。社殿が建てられてまだ数年しか経っていないころ、流罪地の越後から常陸に向かう親鸞はここを通っている。どのような姿で、どのような思いをいだいて、この神社の側らを通りすぎていったのだろう。師法然の、神祇不拜という教えにしたがつて、神社に手を合わせることなく、横目に少し視線を向けただけで立ち止まらずに善光寺へと急いだのだろうか。そんな想像をはるか昔に広げてみる。

四月末、年に一度の例大祭をむかえるにあたって、早朝から氏子が集まって境内の大掃除をした。小学生くらいの子どもから八十を超えていると見られるお年寄りまで三〇〇人を超える氏子たちが、鎌や熊手を持ちよって、雑草を刈り、ゴミを集めて燃やす。子どもたちは奇声をあげながら走り回っている。笑い声が絶えない。

その日の昼、僕の班は花見会をした。毎年恒例の会にもかかわらず、僕だけは初めての参加だった。近所の人たち

と食事をし、盃を酌み交わしながら話をするだけなのだが、こういうコミュニティはたいせつにしなければいけないと思つた。この地区の歴史、人々の暮らしぶり、野菜のつくり方……などなど、この地区のローカルな話題ばかりだ。これが哲学者内山節のいう「里」というものなのだろう。

近代は「自然や歴史、地域や共同」といった関係のなかで生きる人間の世界をこわし「てきた。そういう世界を回復させる場所をもたなければならぬ。それが過去の自然や人間の営みが見える場所、「里」である。いま自分が生きる場所には、そこにしかない自然があり、歴史がある。そういう肌で触れあうような関係性のあるローカルな世界からすべてを組み立てなおす必要があるのではないかと内山はいう。二十世紀の終わりには、われわれは市場経済のなかで暮らすことに疲れ、戦争を産みだす社会の一員として生きることの倦み、かつては光り輝いていた平和とか反戦とか繁栄、科学、技術という言葉が色あせて見えてしまう。かといって、それに変わる新しい価値を見いだせない。

現実の世界はいまグローバリズムにどっぷりと呑み込まれている。グローバリズムとは世界のアメリカ化だ。ソ連崩壊以後、唯一の超大国になったア

メリカは、アメリカ型市場経済を世界に押しつけ、アメリカ型システムで世界を統合しようとする。そういう一元化になじまないローカルなシステムはアメリカに反撥し、衝突することになる。それが顕著なたちになってあらわれたのが、二〇〇一年の九・一一テロである。

アメリカのおしすすめるグローバリズムは、建国前のアメリカ大陸でおこなわれた西部開拓と重なる。近代文明で武装したアングロサクソンは、アメリカ大陸という新たなフロンティアを開拓していくのだが、そこには数千年の昔から暮らしているアメリカインディアンと呼ばれた先住の民がいた。彼らにとつて「開拓」とは、先祖伝来の土地への侵略であり、生活の破壊、文化の破壊であった。アングロサクソンは、先住民が幾世代ものなかで築きあげてきた文化、価値観や信仰をローカルなもの、劣つたものと卑下する。それは彼らの尊厳を踏みにじることであり、アングロサクソンの理不尽な開拓にたいして、誇り高いインディアンは命がけて抵抗するのは当然であった。

アメリカの文明を支える原理は普遍的価値があり、世界にもその原理を広げていくのが正義だと信じているのだろうが、じつさいは世界に貧困を生み、テロを生みだすことになった。「正義」

に抵抗するものは武力で対抗する。アフガン戦争でもイラク戦争でもアメリカにとつては「正義」の戦争である。武力は平和をもたらし有力な手段だと考えているのだ。平和を実現するための戦争は肯定される。初の黒人大統領が誕生したが、アフガン政策を見るかぎり、武力による平和主義は変わらないように思える。平和主義といつても、非戦を前提とする日本の平和主義とはまったく異なる。

日本のアメリカ化は、世紀が変わって登場した小泉という、アメリカに従順な変人首相によって一気にすすめられた。彼は「自民党をぶっ壊す」とか「改革」「小さな政府」という言葉を連呼した。小泉の強調する「改革」によって、新しい日本が生まれ変わるような印象を国民に与え、漠然とそんな幻想を抱かせた。

その実態は、アメリカ型の新自由主義経済原理をとりいれ、大企業よりの政策をすすめる、格差社会を創出させることだった。自衛隊をイラクへ派遣するという憲法違反までして、アメリカの要望どおりに日本を「改革」した。これほどアメリカに従順な小泉政権をマスコミは支持し、国民もあつく支持した。批判する人たちはパージされた。その傲慢な手法は、アメリカが武力を背景に「正義」を押しつけるやり方と同じである。(続く)

健康情報を見極める

藤井寺 笑美

随分下火になりましたが、バナナダイエットが大はやりでした。ダイエットと名前がつくと大ヒットになるようで、女性にとつて魅力？のある言葉みたいです。このようにダイエット情報があふれています。◎○が健康に良い◎◎を食べれば△△が治る◎◎体によい××などといった話題でいっぱいです。例えば「バナナはガンを抑制するので一日一本は食べましょう」「りんごのクエン酸やペクチンは便秘を予防するので毎朝食べたほうが良い」「ココアはミネラルや食物繊維が豊富」「きなこミルクでカルシウムたっぷり」「ゴマはビタミンEがたっぷり」「老化防止や疲労回復に」「青汁健康法で」「等々。身近にある食べ物で健康になれる、瘦せられるのならば、テレビや雑誌などのメディアや知人からの情報をとり入れる人は結構多いようです。テレビで取り上げられた食品は、スーパの棚から消えてしまうほどの反響ぶりです。これらのひとつひとつは、いずれも間違った情報ではないか、ともいって、これらを余分に毎日摂り

続けたら、またはそれだけを食べるというような偏った食事にしてしまうとどうなるのでしょうか？

健康おたくを自称している方ですが、ゴマやきな粉ミルクが体にいいからと、ゴマ大さじ一杯ときな粉ミルクコップ一杯を毎日とつていたらいいのです。三カ月後にびっくり仰天！中性脂肪の値が高くなり、体重が二キロ増えていたそうです。当然のことです。ゴマ大さじ一杯は、約九十キロカロロリ。きな粉ミルク一杯は約二百キロカロリ。合計すると約二百九十キロカロリ。これは、だいたいご飯半合と同じ位のエネルギーになります。それを余分にとつていた訳ですから、三十日で八千七百キロカロリもエネルギー過剰となつてしまいます。当然体重が増えるはず。「せつかく体にいい」と思つて頑張つたのに、「と流石にシユンとしていました」「少しは懲りたのでしょうか(´；`；)???

また、バナナやグレープフルーツダイエットなどでバナナしか、グレープフ

ルーツしか食べないなどで食事を減らすと、最初は体重が減ってきます。しかしやめるとリバウンドが大きくなり、もとの体重より増えてしまうことになりかねません。これは、食べないでいることで体が飢餓状態となり、それを防ぐために吸収率を高めようとする。結果的に太りやすく消費しにくい体質を作つてしまうのです。また偏った食事にしてしまうと、免疫力や抵抗力も低下し余計に体調を崩してしまう結果となります。

健康になろうといういろいろ良さそうなものを食べて体重を増やしてしまつては逆効果です。過ぎたるは及ばざるが如し、暴飲暴食も体を壊しますが、体に良いと言われることも過剰になるとかえつて健康を害することになってしまいます。これさえ食べれば健康になれる、病気になる、瘦せられる、そんな食品があるとすれば、お医者様もいらないし、きっとノーベル賞もの

です。医療分野で証明されているものは「ほとんどない」といつても過言ではないと思います。その効果が実証されるためには、様々な研究者による長期的な研究や調査が必須です。またにあふれる健康情報を見極め惑わされず、正しい知識を持つてバランスの良い食事を心掛ける事が大切だと思います。

携帯エッセイ▼⑩

「料理の効用」

自分で料理するようになって、気付いたことがある。食べ物に感謝するようになったのだ。包丁を使っている時に、まな板の食材に「ありがとう」と心で言う。特に野菜を切っている時にそう言う気持ちになる。体に良い食べ物だからだろう。

そして思いが次のように連なつて行く。

「生きていけるのは動物や植物の命を貰っているから」

「生きていけるのは食べ物を作つてくれる農家や牧畜家がいるから」

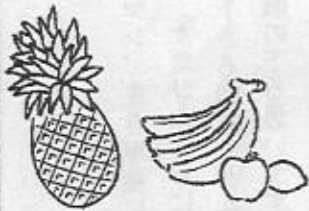
「私は生きていくのではなく、生かされている」

「料理は気持ちを優しくしてくれる」

「男はみんな料理すれば良い」

「男が優しくなれば争いが減る」

「それは平和につながる。戦争が減るかも知れない」(龍)



それでいいのか

しつかり飯をくわせて
陽にあてし布団にくるみて
寝かす幸せ

仕合せに感じているのは誰かとい

う問いに、十人が十人、親と答える。
それが正解かも、あながち名答とも
いえない。

人工衛星なのか、弾道ミサイルな
のか、飛ばしたのは何か知らないが、
国民を飢えさせ、医薬品も行きわた

らせることも出来ない指導者が、か
りそめにも大きな夢を見ることでは
ない。

二十一年・四月・四日〜八日と予
告する。頭上をおびやかされる日本
人にとって、又、防空頭巾、防空壕
入りか。憤って憤りすぎることのな
い迷惑だ。それが成功すれば、腹を
すかせた身で、あるいは、満足な医
療も受けられない病床で、独裁者を
ほめられるのか。

発射には天候も影響する。どんよ
り曇った日である。雨よ降れ、暴風
雨となれ。陽にあてし布団にくるま
ることも許されない人々よ、その日、
その時刻、その場所で一丸となって、
暴風涙雨となって降れ、降れ、降れ
……。

老い知らず

踊りのロマン、生き甲斐に、春の
訪れを感じ、ただひたすらに気長く
つきあって下さる師匠の存在は、本
当に有難く頭の下る思いです。

「民謡」

「♪楽しい事なら 何でもやりたい
笑える場所なら どこへでもゆく
涙の言葉で むれたくはない
青空 あの日の青空 ひとりきり」
井上陽水さんの詞。

いつまでも少年っぽくて若々しい
陽水さんです。

美しく老いてなお咲く多宝華。三
十数年前を思い出しています。
不得手な作法

捨てきれぬ遺品見つめて
身にまとふ

あつさりど、京都へでもブラリと、
友達を誘って おたべの店を訪ね
た。

「お茶をどうぞ。今日はゆっくりし
て下さい」

腰掛け程度に考えて入ったお店
が、お店も暇だからという。

茶室だった。ちりひとつない。「ど
うぞ」と便利な座椅子をすすめられ、
礼儀を失したが度胸をすえた。

ちりひとつない店は、武家の流
れをくむらしい。作法は不得手であ
る。友達を見て知らぬ振りして恥
をかかずにすんだけれど、菓子を出
され 茶を出され引かれ、その都度
おじぎをする。赤面しながらも気持
ちが落ち着いてきた。

ヤレヤレ、いはば一杯の飲み物を
もらうだけの事に深い有難さを感じ、
礼を返す。これが茶道かと、今
頃知った老人の偽りのない気持ちで
ある。

「湖畔の乙女」
「♪落ち葉散る散る山あいの……」
イヤホンから流れてくるこの歌。
そう、菊池章子さんの声。「湖畔の乙
女」で午前二時台の日本のメロディ
ーのひとつとき。菊池さんの歌声を聞
いているうちに、遠い遠い、まだ若
かりし頃の私に誘ってくれるのでし
た。

俳句

糞女

- 日溜りの庭石わたる 猫 あくび
- 蔓張りてあけびの花や 霞む午後
- 玉葱の青芽の向こう くりや窓
- 日脚のびコーヒー友達つい長居
- 花吹笛やさしく風が浄化する

5月 芥川商店街の催し

☆☆☆

着物地から

パンツを作ってみませんか？

これからの季節に、木綿や麻、
夏の着物地でパンツを作って
みるとなかなか快適な作品が
できます。肌触り、通気性がよ
いパンツはクセになりますよ

仕立て代

¥15750

着物から服を仕立てます

糞~ぼん~

当時、伊丹の軍需工場に女子挺身隊と
して働いていました。B29だ、やれ
焼夷弾が落ちたとか、戦いが次第に激化
していったあの頃、この歌を懸命に心に
刻み娑婆で聞くのは最後の歌と 束の
間の心の安らぎを求めていたんでしょ
う。
あの日から生きのびて今、八十四年の
月日を重ねてきました。この歌を聴き
喜怒哀楽の人生を歩みながら 想い出
の中にひそかに涙を流し枕が冷くなっ
た一夜でした。